

第8回 病院まつり「ゆずりは祭」

地域愛

—新しい日常へ—

●本年度のテーマは「地域愛～新しい日常へ～」です。

病院まつりは、地域の人々と交流(つながり)の場であり、地域住民に当院の役割や赤十字について理解を深めていただくとともに、健康への関心を高め、知識の普及等の機会にしていきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけ、今年度は4年ぶりの開催となりました。コロナと共生しながら新しい日常を楽しめるようにさまざまな企画を考えました。

●企画概要と開催報告

1. 「赤十字の活動」を身近に、そして親しみやすい病院に

地域の人々が、健康で長生きするために、栄養チェック、救急法、身体年齢・脳年齢の測定、スキンケア、また医療を身近に感じてもらうためにハンドクリーム作り、アロマストーン体験などを行いました。その他、手洗い、医療機械の紹介、放射線クイズ、心肺蘇生法など地域の皆様に役立つ内容としました。

外来駐車場では、はしご車・消防車・レスキュー車の展示とはしご車搭乗の体験をしていただきました。またステージではのぞみ保育所の子供たちの踊り、バルーンショー、アーコスティックライブ、ピアノと二胡のアンサンブル、よさこい、中学生の合唱など地域の団体にも参加いただき病院まつりを盛り上げていただきました。また、子供たちには、観光戦隊イセシマンやめい姫、いせりい、ハートラちゃんとのふれあい、ゲーム、塗り絵、ユニフォーム試着など楽しんでもらうことができました。サンタさんからのお菓子のプレゼントには多くの子供たちが集まりました。ハートラちゃんの風船も大好評でした。

ドクターヘリの見学は相変わらず人気で抽選には多くの方に並んでいただきました。DMAT・救護班は dERUを立て、その中で展示をし、災害や救護について考えていただきました。

今年もスタンプラリーには多くの方々に挑戦していただきました。各ブースへの訪問者が増え、いろいろな体験していただくことができました。天候にも恵まれ、日頃のご協力や感謝の気持ちを伝える一日となりました。

2. 地域(地域住民)の人々、赤十字三施設の連携、ボランティアに支えられて

病院まつりでは、「地域の方々と創ること」を大切にしています。今年も、三重県角膜・腎臓バンク協会や伊勢消防署、地域の団体にご協力いただきました。また、日本赤十字社三重県支部からはバザーの他、赤十字奉仕団による赤十字無線体験、点字体験、非常食炊き出しのふるまいなどご協力をいただきました。バザーの売り上げや会場内の募金は、「NHK 海外たすけあい」に寄附しています。

三重県赤十字血液センターでは、献血への理解を深めていただく展示を行いました。

伊勢赤十字病院が地域の皆様に信頼される病院であり続けるために、これからも職員一同、心のこもった活動を続けていきたいと思っています。

ご協力ありがとうございました。